

全産業での売上・採算、過去3年間で最低の水準 円安によるコスト増が原因か!?

当所では、藤枝市内小規模事業所の経営動向を把握するため、四半期ごとに景況調査を実施しています。

平成27年1月～3月期の調査がまとまりましたので、概要を報告します。

※本調査は、製造業・建設業・卸売業・小売業・サービス業の5種200社を対象に行っています。今回の回収率83.5%。

【主要な表現について】○業況判断：調査対象企業が自らの業績に下した判断。

○DI値：(増加・好転と回答した割合) - (減少・悪化と回答した割合) 悪化すればするほどDI値は▲(マイナス)になります。

管内全産業の業況

業種別業況判断の動向(表1)：全産業での業況は、DI値▲32.5で前回(H26年10月～12月)より4.8ポイント悪化しました。特にサービス業は20.6ポイントマイナス幅を広げ、DI値も△39.5と業種別でも最も悪くなりました。

今後の見通しでは、いずれの業種も前期に比べDI値のマイナス幅が縮小され改善すると見ている。

全産業売上高の動向(表2)：前回(H26年10月～12月)より13.3ポイント悪化し、過去3年間の中で最も低い水準となりました。特に製造業は、47.7ポイントの大幅な減少となりました。

全産業採算の動向(表4)：前回(H26年10月～12月)より10.2ポイント悪化し、DI値▲40.9と売上同様ここ3年間で最低水準となりました。前年同期比で製造業・卸売業の6割の企業が悪化したと回答しております。

需要の停滞による売上の減少に加え、原材料・仕入れ価格の上昇が主な要因と思われます。

表1

業種別業況判断の動向

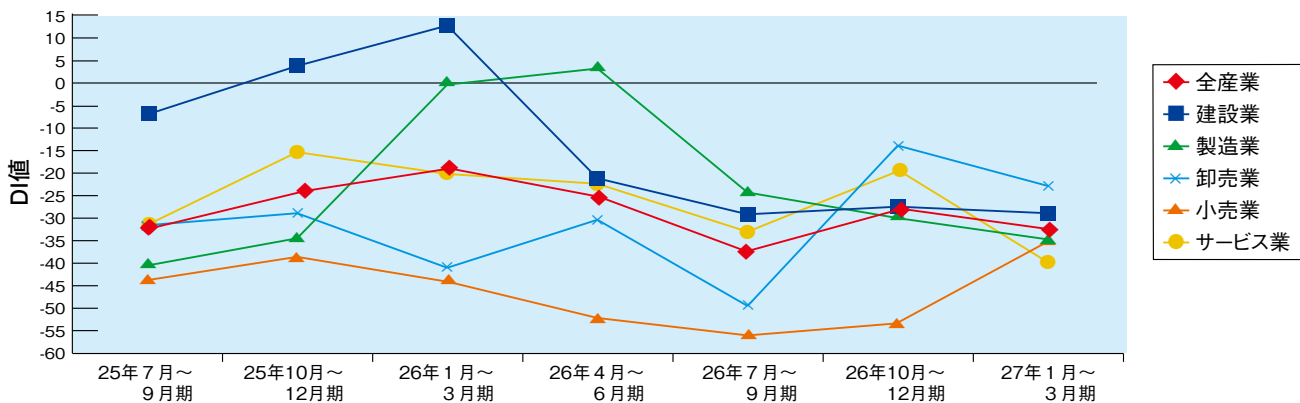


表2

全産業売上高の動向

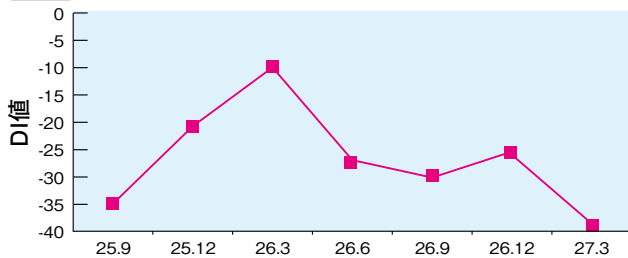


表3

全産業資金繰りの動向

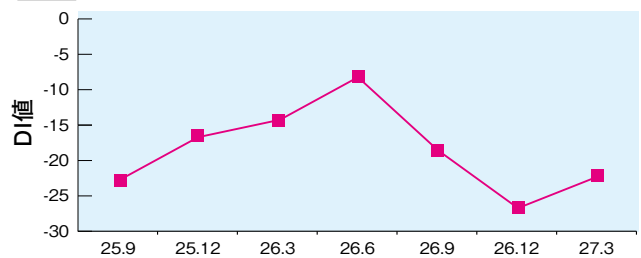


表4

全産業採算の動向

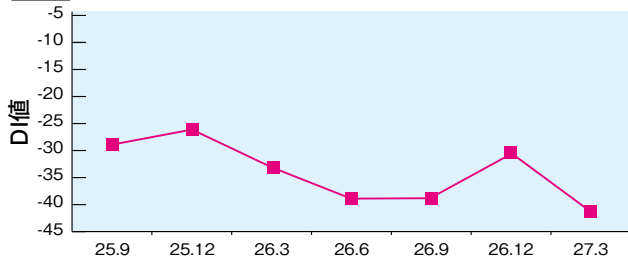
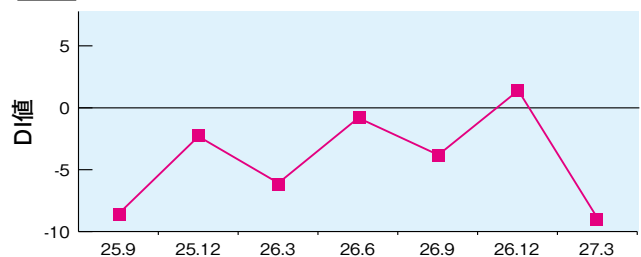


表5

全産業雇用人員の動向



問合せ先 藤枝商工会議所 経営支援課 TEL054-641-2000